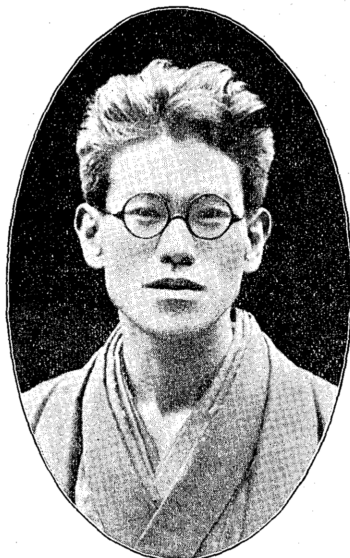
雜錄 Miscellaneous

○故澤田武太郎君追想記（久内清孝）

澤田武太郎君ハ昭和 13 年 12 月 27 日午後 6 時頃迄ハ平常ト變リナカリシ由ナルガ、午後 9 時頃ニ至リ 40 歳ヲ一期トシテ、突如我等ト幽明處ヲ異ニシタ。玆ニ、編輯同人ノ慫慂ニ順ヒ、僭越ナガラ本誌ニ同氏ノ追想ヲ記スコトニナツタガ、先立ツベキ余ガ先立ツ筈デナカツタ同君ヲ追想スルコトニナツタノハ、假令ソレガ天意デアルニシテモ感慨誠ニ無量デアル。氏ハ數年前ヨリ健康上ニ多少ノ異例ハアリタルモ、悲報ニ接スルノ斯モ速カナリシハ全ク意外デアル。氏ハ東京高等師範學校博物科ヲ出デ各地ニ教鞭ヲ執ラレタ鉚義(カヅヨシ)氏ヲ父トシ、保科子爵家ノ息女デ、岩崎久彌男夫人ノ令妹ニ當ル建子(タツ)夫人ヲ母トシテ、明治 32 年 11 月 17 日東京小石川指ケ谷町 62 番地ニ澤田家ノ長男トシテ呱々ノ聲ヲ擧ゲタ。祖父ハ舊飯野藩（千葉縣君津郡）主、保科家ノ藩士デ起倒流柔道指南役デアツタガ、明治ノ中葉ニ至リ、故アリテ、箱根底倉ノ舊家蔦家ヲ引受ケ、祖母ガ多年其經營ニ當ラレタガ、祖母ノ歿後ハ嚴父並ニ母堂ガ其任ニ當ラレテ今日ニ及ンダ。從ツテ、武太郎夫妻ガ蔦屋ノ經營ニ從事シタリ、マタ、澤田君ガ自慢ノ「箱根七湯ノ栞」ナル繪卷ガ同家ニ藏サテ居ルノモ、叙上ノ關係ニ基クノデアル。



故澤田武太郎君（昭和二年十二月撮影）
Late T. SAWADA in 1927.

武太郎君ハ幼時山水明眉ナル箱根ニ育チ、同地溫泉村小學校ヨリ曉星中學、第四高等學校ヲ經テ東京帝國大學經濟學部ニ入學シ大正 13 年ニ業ヲ卒ヘタ。此間長ズルニ從ヒ、漸ク植物ニ親シム樣ニナリ、東京遊學中ニハ植物文獻ノ蒐集ニ意ヲ用ヒ、中井博士ノ大日本樹木誌第一版ヲ成美堂デ一般賣出シ前ニ手ニ入レテ微笑シテ居タコトモアツタ、マタ植物學教室ニモ出入スル樣ニナツタ。當時ノ教室ハ小石川植物園內ニアツテ、故早田文藏教授ガ主任ノ時代デアツタガ、早田博士ハ氏ニ教室出入ヲ許容スルニ當リ、先ヅ數葉ノ腊葉ヲ示シテ其名稱ヲ問ヒ、更ニ J.C. WILLIS ノ著 Age and Area（此ノ本ハ現東北帝大教授吉井義次博士ガ植物雜誌 XXXVII 卷 p. 63 ニ「古サト廣サ」ト譯シテ、其內容ヲ紹介サレテ居ル）ノ通讀ヲ奬メラレタ處、澤田君ハ既ニ其愛讀者デアツタノデ、早田氏ハ非常ニ喜バレタトハ、當時筆者ガ澤田君カラ聞イタ話デ、余ハ今其話ヲ想起シ、當時ノ澤田君ノ風貌ヲ思ヒ出スノデアル。

澤田君ノ足跡卽チ採集區域ハ北ハカムチャッカカラ西ハ山口縣下ニ及ンデ居ルガ、其主ナ

ルモノヲ東大所藏標本ニツキ、中井教授、前川助手等ト調ベテ見ルト次ノ如クデアル。即チ、大正 8 年 (1919) 7 月ニ赤石山系聖岳、同 8 月ニ北樺太、同 12 年 (1923) 5 月ニ信州淺間溫泉、扉峠、茶臼山、美ケ原及ビ武石峠（此ノ旅行ハ岡田要之助博士、小泉秀雄氏等ト同行）マタ、7 月ハ伯耆大山、石見三瓶山、同 13 年 (1924) 4 月ニハ越中立山々彙、5 月ニハ能登寶達山、7, 8 兩月ニハ北樺太ヲ經テカムチヤッカ（カムチヤッカデハ官權ノ警戒嚴重デ採集出來ナカツタ）ニ達シテ居ル。其他中井博士ト日光及ビ天城山、朝比奈博士トハ天城山萬二郎岳ヘ行カレタ。勿論地元附近ノ箱根諸山（特ニたかくまひきおこし、たにへごヲ發見シテ仙石濕原ガ保存サルヽニ至ツタ因ヲ作ツタノハ氏ノ功デアル）、駿河ノ富士山、愛鷹山、天子ケ岳（籾山泰一氏同行）甲州十二ケ岳、三ツ峠、ナドニハ相當ノ回數ニ亘リ行カレタ。ソノ中デカムチヤッカ旅行ハ最モ遠征的性質ノモノデアツタ。カムチヤッカ以外ノ採集品ノ大部分ハ今尙東大ニ保存サレ、且ツ末永ク後學ヲ裨益スルデアラウ。大正 12 年ニ起ツタ關東大地震ハ、氏ガカムチヤッカヨリ歸函シテ間モナクノコトデ、氏ハ自室デ WILSON 氏ノ松柏科篇ヲ閱讀中災厄ニ襲レタノデアツテ、此ノ時蔦屋ハ全ク潰滅シタノデアツタ。當時（9 月 15 日）筆者ハ氏ヲ此壞墟ニ訪ヒ、倒壞シタ木材ノ堆積中ヨリ姿ヲ現シタ氏ト感激ノ對面ヲシタ。爾來氏ハ卒業後既ニ約束サレタ青年學士憧レノ就職ヲ放擲シテ、專心父君ヲ援ケ蔦屋ノ復興ニ盡瘁シタガ、尙餘暇ヲ植物ノ檢討ニ利用シ、上京ノ折ニハ植物教室ヲ訪レテ、中井、本田兩博士其他ト快談サレルノガ常デアツタ。氏ノ從弟淸太郞君（北大水產學科出身）ノ通信中ニ「奥デ同一ガ晩餐ヲスルトキ定ツテ書齋ノ上ノ居室カラ植物ノ學名ヲ口ニ稱ヘナガラ階段ヲ降リテ來マシタガ、ソレガ御飯ノ時學名ヲ一ツ宛記憶スル様ニ心掛テ居ラレタ様ニ思ハレタコトヲ想ヒ出シマシタ」トアルガ、如何ニモ當時ノ氏ヲ知ルモノヲ首肯セシムルニ足ル逸話デアル。

昭和 2 年 12 月 7 日堀榮助、三宅驥一博士兩氏ノ媒酌デ、箱根神社神殿ニ於テ、紋章學者、故沼田賴輔博士ノ第四女吉備子孃（京大教授沼田大學氏令妹）ト偕老ノ契リヲ結ビ長男和君ノ外三男二女ヲ擧ゲタ。箱根ニ於ケル澤田君ハ常ニ村政ヤ教育ヤ其他數種ノ公共事業ノ爲ニ盡サレ、官幣小社箱根神社ノ囑託ヲモ務メ、殆ンド寧日ナカリシニモ拘ラズ、依然トシテ蒜鞭ノ道ニ親ムコトヲ忘レナカツタ。其爲新屬はこねらん (*Hakoneaste Sawadana* F. MAEKAWA) ヲ筆頭トシ其他 *Arundinaria Sawadai* NAKAI（はこねめだけ）、*Saussurea Sawadæ* KITAM.（仙石ひごたい）、*Cirsium comosum* MATSUM. var. *Sawadæ* KITAM.（はこねあざみ）等氏ヲ記念スル植物ノ外幾多ノ植物ヲ箱根ノふろらニ加へ得タ、此間某日箱根駒ケ岳頂上デ、當時富士及ビ箱根調査中ナリシ早田博士ノ馬上ノ姿ニ接シタコトハ、氏ニトリテ思ヒ出深イ記憶ノ一ツデアツタ様デアル。氏自身ノ興味ハ命名規約ノ研究ヤ、樹木學デアツタコトハ云フ迄モナイガ、殊ニ箱根ノ樹木ニ就テハ、格別ノ愛著ヲ有シテ居タ様デアル。而シテ其片鱗ガ 6 回ニ亘ル箱根植物雜記（多忙ノ爲 6 回デ休止）其他[1]（最近版 MERRILL 及 WALKER 兩氏ノ東亞植物文獻書史ニハ 12 篇ガ載セテアル）トナツタノデアルト察セラレル。氏ハ藏書家デアリ、愛書家デアリ又讀書家デアッタ、シカモ其內容ニハ骨董的ノ嗅ガナク、全然學術的內容ヲ具備シタ優秀ナ蒐集デ、中井博士ハ氏ノ書齋ヲ箱根圖書館ト稱シテ

推賞シテ居ラレタ程デ、氏ノ藏書ガ學界ヲ裨益シタコトハ決シテ尋常デハナカツタ、サレバ、余ハ氏ノ藏書ヤ箱根ノ植物ニ接センガ爲、氏ヲ煩サヾリシ植物家ハ甚ダ鮮イト言フモ決シテ過言デナイト確信シテ居ル。又大正 15 年ニ空前ノ盛儀トシテ太平洋學術會議ガ東京ニ開催サルヽヤ、箱根旅行班ノ爲、特ニ斡旋ノ勞ヲトラレテ世界ノ學者ニ協力サレタ。

以上ノ如ク、追想ニ追想ヲ重ネ來レバ止ム時ガ無イガ、若シ天ガ氏ニ藉スニ更ニ幾春秋ヲ吝マザリシナラバ尙多クノ追想スベキ事蹟ヲ殘サレタデアラウガ、今空シク志ヲ箱根ノ樹木ノ梢ニ殘シテ長逝サレタコトハ、遺族ト共ニ返ス返スモ痛恨ノ極デアル。然レ共、生ハ寄デアリ、死ハ歸デアルト云フ、サレバ、筆者ハ「浮世にはとゞめおかじと春風の散すは花をおしむなりけり」ト詠マレタ、人類ニ共通ナル詩人西行ノ信仰ニ共鳴シテ此ノ追想ヲ終ルコトニスル。

尙納棺ニ際シテハ、遺族ノ心盡シデ、棺內右枕元ヘ牧野博士ノ日本植物圖鑑ノ樹木ノ個所ヲ開キ、個人ガ披見シ得ル如ク立テ掛ケ、足部ニハ、愛用ノ登山靴ヲ納メ、29 日午後 3 時出棺、酒勾村網一色ナル相州、小田原町々營火葬場ニ於テ、午後 4 時荼毘ニ付シ、骨壺ニハ登山靴ノ鋲ヲ納メタル由。マタ遺骨ハ横濱市神奈川區鶴屋町、日蓮宗勸行寺墓地ニ埋葬サレ、戒名ハ厚順院正則日武信士ト呼ブ。最後ニ中井東大敎授ハ本稿ヲ內閲シ且資料ヲ供サレ、マタ岡田要之助博士、前川東大助手並ニ遺族ノ方々モ資料ヲ提供サレタ事ヲ特記ス。

Taketaro Sawada(2) who rendered a special assistance at Hakone to those who joined the botanical excursion made into that region on October 26–29, 1926 when the Third Pan-Pacific Science Congress was held at Tokyo, has passed away on December 27, 1938. The deceased, aged forty, was a graduate of the Dept. of Econom'cs of the Imp. Univ. Tokyo and was a voluntary botanist and owner of an excellent collection of botanical literatures. (K. Hisauti)

(1) 箱根の植物（箱根神社出版）

(2) in E.D. Merrill & E.H. Walker, The Bibliography of the Eastern Asiatic Botany (1938) p. 433.

○我邦ノ樟科 *Litseae* 族植物ニ就イテノ正誤（中井猛之進）

本誌第 14 卷第 3 號 182 頁ニ列記シタ *Litsea* 屬ノ基本種ノ名ノ中最初ニ記シタル *Glabraria tersa* Linnæus ハ其原標本ヲ檢シタル Merrill 教授ニヨルト原標本ハきわた科ノ *Boschia* 屬ノ植物デアル (E. D. Merrill: A Commentary on Loureiro's Flora Cochinchinensis in Transaction of the American Philosophical Society XXIV, Art. 2, 166 頁參照)。故ニ基本種ノ最モ古イ正シイ名ハ *Sebifera glutinosa* Loureiro トナリ、之ヲ *Litsea* 屬ニ移シテ組合セテ作ツタ *Litsea glutinosa* C.B. Robinson ガ基本種ノ正名トナル。尙ホ 183 頁ノ異名 24 ノ下ニ更ニ *Litsea glutinosa* var. *brideliifolia* Merrill in Lingnan Agricultural Review I 2, 84 (1923); in Lingnan Science Journal V, 80 (1937), excl. specimina ヲ加ヘル。次ニ 193 頁 *Fiwa mushaensis* ノ異名ヲ次ノ樣ニ